



地震による火災延焼を阻止する!

「首都直下地震等による東京の被害想定」において、大田区は火災による死者390人、建物被害が18,884棟と被害の発生が見込まれています。火災を延焼させないことが被害を最小限にするポイントです。

わが家から出火させない!

①ゆれがおさまったら火の元を確認する

ゆれている間は身を守ることが第一。ゆれがおさまったらコンロやガスの元栓などを閉める。



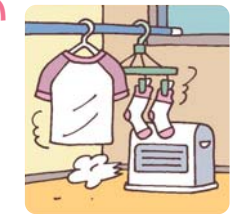
②住宅用火災警報器や感震ブレーカーなどを設置する

わが家からの出火を知らせる住宅用火災警報器や通電時の火災を防ぐ感震ブレーカーなどを設置しておく。



③ストーブの周りにものを置かない

ストーブの周りに洗濯物などの可燃物を置かないことが大切。



④カーテンなどを防災品にする

カーテンやじゅうたんなどを防災品にしておくことで、着火しにくく、燃え広がるのを防ぐ。



⑤消火器を用意しておき、使い方を覚えておく

わが家から出火した場合、火が小さいうちに消火ができれば、被害が大幅に軽減される。



出火してしまったら、火は小さいうちに消す!

火災が発生したとき、発見したとき

- まわりの人に大声で火事を知らせる。声が出ないときは、非常ベルや音の出るものをたたいて知らせる。
- 119番に通報する。



消火器の使い方

●消火器を使用する場所に持ってくる。



消火のポイント

- 風上にまわり炎の熱や煙を避けて構える
- 屋内では出入り口を背にして避難路を確保
- 炎を狙うのではなく、燃えているものに向かってホースを左右に振る

災害時は、街頭設置消火器も活用しよう!

まちなかに概ね100mの間隔で、約6,900本の消火器を設置しています。



地域で協力した初期消火を!!

火災が同時多発的に発生した場合、消防署・消防団でも全ての火災に対応することができません。火が小さいうちなら、消火器やバケツリレーなどで消火することもできます。地域の皆さんによる初期消火が重要です。

大田区では自治会・町会が防災市民組織を結成しています。可搬消防ポンプやスタンドパイプといった消火資器材で、初期消火活動を行います。自分や家族を守るためには、自らもこうした消火活動を行うことが大切です。(防災市民組織の活動はNo.⑮参照)



防災市民組織に配備している消火資器材



エンジンでポンプを稼働させ、「防火水槽」などから水をくみ上げ放水する。



道路上にある「消火栓」に接続し、水圧を利用して放水する。

消火栓および防火水槽の位置情報については東京消防庁マップをご参照ください。



東京消防庁マップ
二次元コード▶



●東京消防庁マップ URL
<https://firemap.tokyo.dsvc.jp/?station=5020704&layer=3000>

消火が無理なときは・・・

消火が難しいと判断したら、命を守ることが最優先です。近隣の人とも協力して、すばやい避難が必要です。(避難の方法はNo.⑦参照)

大田区では

住宅用火災警報器と蓄圧式消火器の
あっせんを年間を通じて行っています。

→ 防災危機管理課 5744-1235
管理担当 5744-1519



地震(震度6弱以上)が発生し、ライフラインが停止したら 緊急医療救護所等が設置されます!

地震が発生し、けがをしたら?

できる範囲で応急処置をしましょう。

医師の診断が必要な場合は、
緊急医療救護所等へ向かってください。

緊急医療救護所・軽症者救護所では・・・

- 1 傷病者にどのような治療が必要か判断し、優先度をつけます。(トリアージと言います)
- 2 軽症の場合は応急処置を、中等症以上の場合は病院へ搬送します。
- 3 緊急医療救護所・軽症者救護所は、発災直後から概ね72時間まで開設します。



※72時間以降は、地区の医療機関の復旧状況等をふまえて、適宜医療救護所を設置します。
医療救護所の一覧は大田区ホームページで確認してください。

緊急医療救護所設置場所 ※場所は大田区防災ハザードマップで確認

病院名	住所	病院名	住所
① 大田病院	大森東4-4-14	⑨ 荏原病院	東雪谷4-5-10
② 東京労災病院	大森南4-13-21	⑩ 東急病院	北千束3-27-2
③ 東邦大学医療センター大森病院	大森西6-11-1	⑪ 目蒲病院	下丸子3-23-3
④ 牧田総合病院	西蒲田8-20-1	⑫ 本多病院	東矢口1-17-15
⑤ 大田池上病院	池上2-7-10	⑬ 東京蒲田病院	西蒲田7-10-1
⑥ 池上総合病院	池上6-1-19	⑭ JCHO東京蒲田医療センター	南蒲田2-19-2
⑦ 大森赤十字病院	中央4-30-1	⑮ 渡辺病院	羽田1-5-16
⑧ 田園調布中央病院	田園調布2-43-1		

軽症者救護所設置場所 ※場所は大田区防災ハザードマップで確認

学校名	住所	学校名	住所
① 馬込小学校	南馬込1-34-1	③ 六郷中学校	仲六郷3-11-11
② 東調布中学校	田園調布南29-15	④ 入新井第一小学校	大森北4-6-7

※病院が近くにない地域の学校に軽症者(歩ける程度)の治療を行うために設置します。重症者等は緊急医療救護所に対応します。

緊急医療救護所についてのお問い合わせ

健康医療政策課
災害・地域医療担当(災害時医療)

TEL 03-5744-1264
FAX 03-5744-1523

その他の震災対策

津波が発生したら・・・

大田区では、津波の高さより堤防や防潮堤が高く整備されているため、津波被害の危険性は低いですが、水門が開放されている場合は、一部地区に浸水することが想定されています。日頃から避難場所と避難経路を確認しておきましょう。

大田区では、万が一津波が発生したとき一時的に避難できる「津波一時避難施設」を指定しています。**施設の一覧は、大田区防災ハザードマップで確認できます。**

警報等が発表された場合は、速やかに海や河川から離れ、高いビルや学校などに避難してください。



(放送の内容)
津波警報が発表されました。
海岸付近の方は
高いところに避難してください。

液状化現象

液状化現象とは、地震が発生した際に地盤が液体状になる現象です。首都直下地震等が発生した場合、大田区においても液状化が発生し、地盤崩壊による建物等の被害が想定されます。

大田区ホームページの「建築物の液状化対策」で、液状化の可能性が高い地域、対策方法等の情報を公開しています。事前に確認しておきましょう。

液状化対策の相談 ▶ 建築審査課構造審査担当 ☎5744-1389 FAX5744-1557

マンションの震災対策

- ゆれ** 高層階ほど大きく揺れます。家具の転倒、落下、移動に注意。
- 配管** 配管が破損すると、トイレや台所の水が流せなくなります。
- 移動や運搬** エレベーターが停止し、高層階への移動や物資の運搬が困難になります。

居住継続の すすめ

地震発生後も住み慣れた自宅で生活を続けることが一番です。
発災直後の避難所は混乱が想定されます。マンションは木造家屋に比べ耐震性・耐火性に優れるため、地震による建物の倒壊等の可能性は低く、住み慣れた自宅での生活を継続していくことが可能な建物であると言えます。自宅での生活を継続するために、本誌No.③～No.④を参考に、**①家具転倒防止対策②家庭内備蓄③ごみや排泄物の対策**を日頃から心がけましょう。
また、マンションは、同じ建物に多くの人たちが暮らしているという利点を生かして住人同士やマンションぐるみで助け合う環境を作りましょう。

マンションの住民も地域の一員です!

災害時に地元の自治会・町会では被害を最小限にするため、初期消火や救助活動、避難所の運営などを行います。マンションの住民も地域の一員として、防災活動への協力が不可欠です。

日頃から自治会・町会の訓練やイベントに参加し、いざという時に地域の方と助け合える関係づくりをしておきましょう!



大田区
では

マンションの防災パンフレット

▶ 防災危機管理課普及担当

☎5744-1611 FAX 5744-1519



マンション居住者向けの防災パンフレットを発行しています。個人の備えや、マンションぐるみで防災対策を行うコツなどを紹介しています。

※防災危機管理課や特別出張所の窓口で配布しており、区のホームページからもダウンロードできます。

気象について知ろう



日本では、毎年のように集中豪雨や台風等によって河川の氾濫や土砂災害等が発生し、大きな被害が発生しています。このような被害から自分の命を守るため、気象とそれによりもたらされる風水害の種類や特性を知り、いざというときのために備えましょう。

大雨

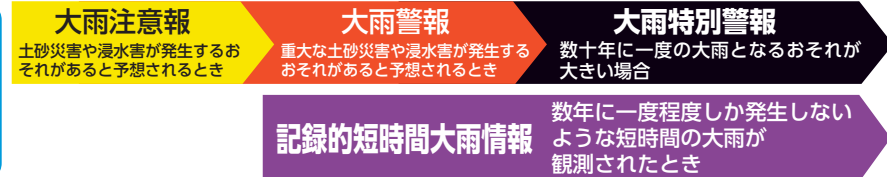
近年の集中豪雨は、積乱雲が線上に連なる「線状降水帯」の発生等により、局地化・甚大化する傾向にあります。雨風が強くなる恐れがある場合は、気象情報をこまめにチェックする習慣をつけましょう。

時間の流れ



大雨

大雨に関する気象情報



●雨の強さの目安

1時間雨量	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm以上
周囲の状況	傘が降る。地面一面に水たまりができる。	どしゃ降り。傘をさしてもぬれる。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。下水管から雨水があふれる。	滝のように降る。傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険。マンホールから水が噴出する。	息苦しくなるような圧迫感がある。雨による大規模な災害が発生するおそれが高い。

台風

●台風の状況と気象情報

台風の状況	気象庁の気象情報	地元気象台の気象情報
台風発生	熱帯低気圧に関する情報 台風情報 12時間先、24時間先の予報(3時間ごと) 最大120時間先までの24時間刻みの予報(6時間ごと) 実況と1時間後の推定値(1時間ごと) 24時間先までの3時間刻みの予報(3時間ごと)	台風に関する気象情報 (以後、暴風などの状況を適宜発表)
台風接近	暴風域に入る確率の発表 120時間以内に暴風域に入る確率が0.5%以上の地域に対して6時間ごとに発表 台風情報 (1時間ごと) 台風の中心が日本列島から概ね300km以内に入った場合	強風、大雨、高潮注意報など
台風上陸	「台風○号は、○日○時ごろ、○○市付近に上陸しました」	暴風、大雨、高潮警報など 土砂災害警戒情報 (重大な土砂災害の恐れがある場合)

※台風を指標とする特別警報については、本州などでは伊勢湾台風級(中心気圧930hPa以下、風速50メートル以上)を指標としますが、沖縄、奄美、小笠原については、中心気圧910hPa以下、風速60メートル以上を指標として特別警報を出します。

●台風の強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/秒以上～44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上

●台風の大きさの階級分け

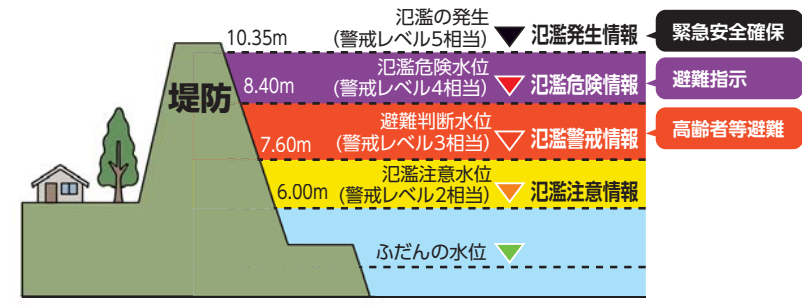
階級	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

大雨・台風によりもたらされる風水害

河川の氾濫

多摩川の氾濫

多摩川の堤防が決壊すると、大量の水がまちなかに流れ込み、家屋が損壊する恐れがあります。



大田区防災ハザードマップで

※多摩川の水位は、田園調布(上)観測所の水位

は、想定しうる最大規模の降雨(多摩川の全流域で48時間に588mm)があった場合の大田区内の浸水想定区域、浸水の深さ及び浸水継続時間を確認できます。気象情報や避難情報に十分注意し、早めの避難を心がけましょう。

中小河川(呑川等)・内水氾濫

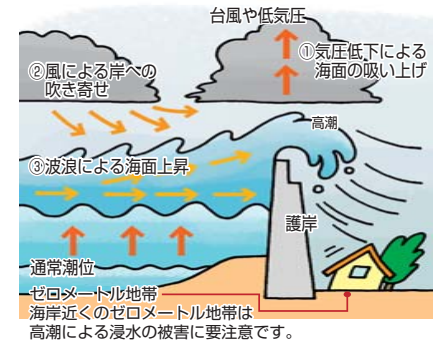
中小河川は、水位の変化が早いことが特徴です。また、河川の氾濫の他に、短時間で大雨が下水道や排水路へ一気に流入することにより排水機能が低下し、水が溢れ浸水をもたらす内水氾濫の被害も想定されます。



多摩川の氾濫と併せて、大田区内の中小河川の氾濫及び内水氾濫の浸水想定区域及び浸水の深さを事前に大田区防災ハザードマップで確認しておきましょう。

高潮

超大型台風が接近すると、海面の上昇や強風の吹き寄せ等によって海面上昇(高潮)が発生することがあります。



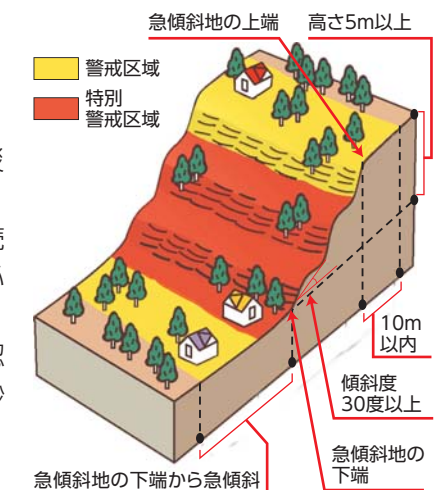
大田区防災ハザードマップでは、高潮による想定最大規模の浸水想定を掲載しています。浸水想定は、一部多摩川堤防の決壊を想定しているため、沿岸部以外についても浸水想定がなされています。

土砂災害(がけ崩れ)

大田区の田園調布や馬込等の台地部には、計96区域の土砂災害(特別)警戒区域があります。急傾斜地付近では、大雨により地盤がゆるみ、がけ崩れが発生する可能性があります。大雨が続いているときや、補強されていない自然斜面では特に注意が必要です。

大田区防災ハザードマップで土砂災害(特別)警戒区域を確認しておき、いざというときには気象庁や東京都が発表する「土砂災害警戒情報」、区が発令する「避難指示」等に注意しましょう。

がけ崩れの前兆 水の濁り、異音、小石が落ちてくる など



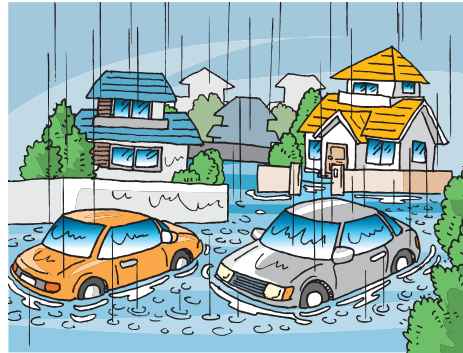
レッドゾーンは、高さ・傾度・土質等から計算で決定

家屋を浸水から守る!



家屋を浸水から守ろう!

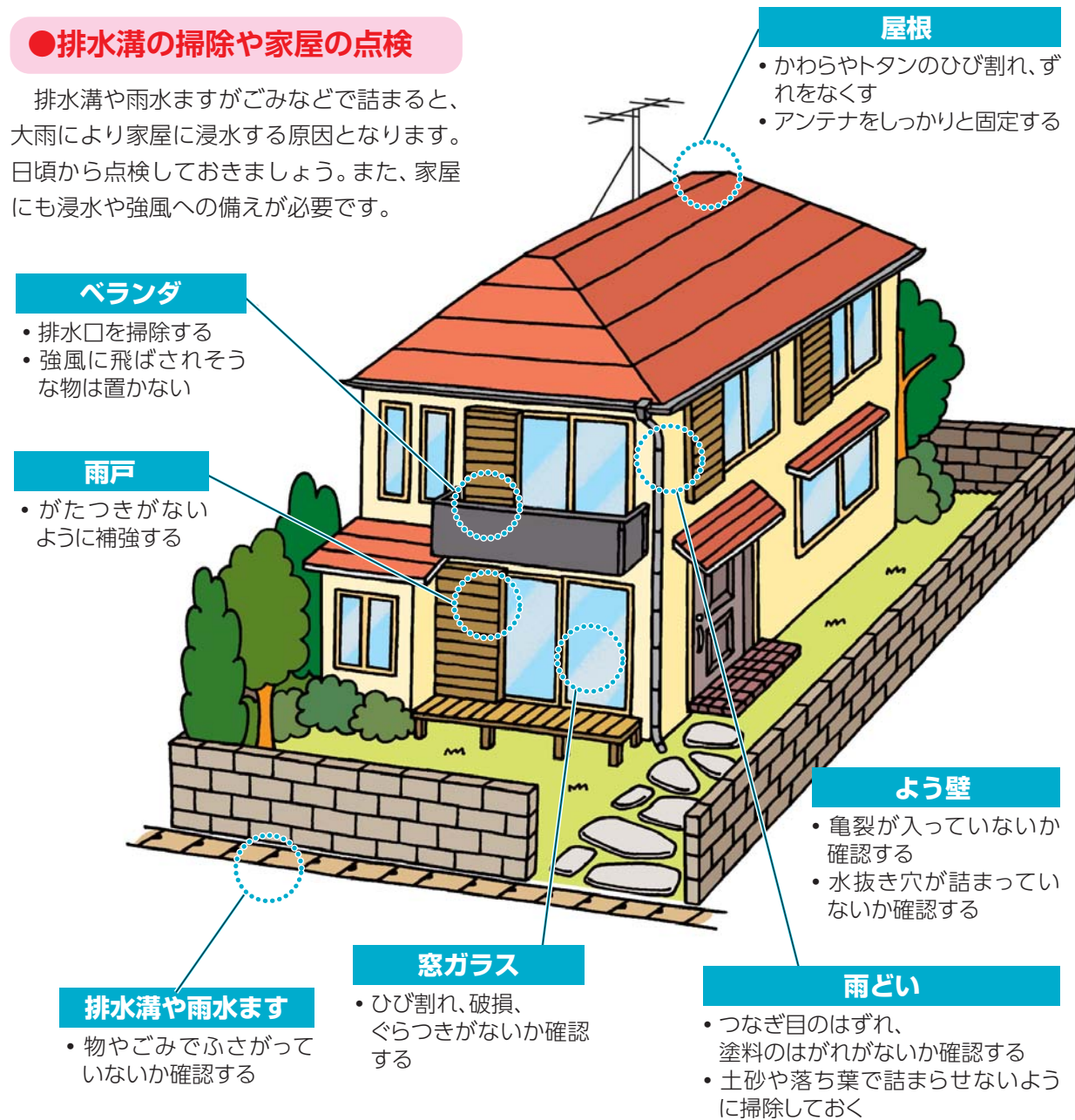
集中豪雨等により浸水被害が発生した場合、2階以上でもベランダの排水溝が詰まっていると浸水する恐れがあります。下水道から逆流した例も多く、注意が必要です。浸水が浅いときは土のうや水のうなどで家屋への浸水を防止できます。大雨や台風が来る前に準備しておきましょう。



平常時の備え

●排水溝の掃除や家屋の点検

排水溝や雨水ますがごみなどで詰まると、大雨により家屋に浸水する原因となります。日頃から点検しておきましょう。また、家屋にも浸水や強風への備えが必要です。



屋根

- かわらやトタンのひび割れ、ずれをなくす
- アンテナをしっかりと固定する

ベランダ

- 排水口を掃除する
- 強風に飛ばされそうな物は置かない

雨戸

- がたつきがないように補強する

よう壁

- 亀裂が入っていないか確認する
- 水抜き穴が詰まっていないか確認する

窓ガラス

- ひび割れ、破損、ぐらつきがないか確認する

雨どい

- つなぎ目ははずれ、塗料のはがれがないか確認する
- 土砂や落ち葉で詰まらせないように掃除しておく

排水溝や雨水ます

- 物やごみでふさがっていないか確認する

家屋の浸水防止対策

●土のう

区では土のうの無料配布を行っています。また、緊急時すぐに土のうが必要なときに備えて、区内27か所に土のう置場を設置しています。

土のう置場の場所は大田区防災ハザードマップや大田区ホームページで確認できます。



家屋・店舗など



半地下車庫など

●簡易水のう

簡易水のうは、身近にあるもの(段ボールやビニール袋)を使って作ることができます。

水のうの作り方



- 1 ビニール袋(ごみ袋)を二重にし、水を入れます。(持ち運べる程度)
- 2 ①を段ボール箱に入れ、出入り口などの水の侵入部にすき間なく並べます。

●止水板

門や玄関などに板を渡し、土のうなどで押さえることによって浸水を防止します。



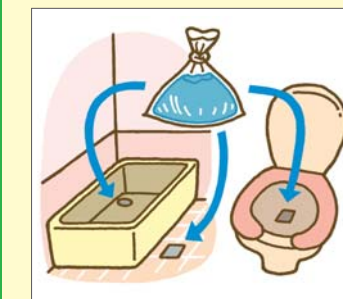
長めの板を利用して

●排水ポンプ

半地下の車庫などは、排水設備を点検しましょう。排水設備がない場合は、市販の排水ポンプも有効です。

こんなところにも

流し台や風呂の排水口、トイレなどから下水が逆流する恐れがあります。水のうで排水口をふさぎ、浸水を防ぎましょう。



大田区では

土のうの無料配送及び土のう置場 → 地域を管轄する地域基盤整備担当へ

●地域基盤整備第一課 (大森地域)	☎5764-0631
●地域基盤整備第二課 (蒲田・萩谷・羽田地域)	☎5713-2007
●地域基盤整備第三課 (調布地域)	☎3726-4303

雨水浸透施設設置助成 → 建築調整課 ☎5744-1308 ☎5744-1558

助成対象となる雨水浸透施設は、屋根に降る雨水を地下に浸透させる施設のうち、雨水浸透樹と雨水浸透管となります。

風水害からの避難のポイント



大雨や台風は、震災とは異なり、接近時期や規模を事前にある程度予測することができます。日頃から自宅や学校・職場等の生活環境にどのような災害リスクがあるか、ハザードマップ等で確認し、いざ大雨や台風等が迫ってきた場合は、早めに避難行動がとれるように準備しておきましょう。

日頃から準備しておくこと

①自宅周辺の被害想定を確認しておく

大田区防災ハザードマップで、自宅付近の地域が、浸水想定区域や土砂災害（特別）警戒区域等に含まれるか、また浸水継続時間はどのくらいかをあらかじめ確認しておきましょう。

②避難先と避難経路を確保しておく

区で指定している水害時緊急避難場所とは、避難行動要支援者や自ら避難先を確保することが困難な方が、一時的に避難する場所です。そのため、原則として自ら避難先と避難経路を確保しておく必要があります。安全な地域に住む親戚や知人の家等を避難先に設定しておきましょう。

また、大雨が降った際は普段安全に通行できるところが通行止めになる可能性があります。避難先と避難経路は必ず複数確保しておきましょう。

地下道（アンダーパス）の冠水に注意

地面より低いアンダーパスでは大量の雨水がたまっている危険性があります。自動車で冠水に気づかず進入し、水の深みにはまると、エンジンが停止し、水圧や電気系統の故障でドアや窓が開けられず、脱出できなくなる恐れがあります。

アンダーパスの入口には「冠水表示板」が設置されています。大雨の時は、表示に注意し、迂回するなどして危険を回避してください。



③非常持出品・非常用備蓄品の準備をしておく

最低3日間、できれば1週間は生活できるように必要な食料や物品を非常備蓄品として用意しておきましょう。（No.④参照）

また、避難時にすぐ持ち出せるように、最小限の必需品を非常持出品としてリュックサックなどにまとめて玄関の近くに置いておきましょう。（No.⑦参照）

台風や大雨が迫ってきたら

①情報収集を行う

大雨や台風の接近時期やそれによる風水害はある程度予測が可能です。避難前の段階では、No.⑭を参考に、台風の進路や自宅付近の雨量、近隣の川の水位等の情報を確実に収集しましょう。

②避難しやすい服装に着替える

避難する前には動きやすい服装に着替えましょう。かばんは両手がふさがらないようにリュックサックを使用し、靴は長靴ではなく、動きやすい運動靴にしましょう。

③避難時に持ち出すものを最終確認

前項③非常持出品の最終確認を行います。足りないものがあれば補完しておきましょう。

避難指示等が発令されていなくても自主的に避難する

震災時とは異なり、被害が局地的に発生するため、自分で判断し避難することが重要です。

避難するタイミング

- 1 明るいうちに
- 2 公共交通機関が動いているうちに
- 3 暴風になる前に
- 4 異常を発見したら

※以下のことに注意

- ① 急傾斜地（がけ）付近ではがけ崩れの兆候
- ② 河川付近では水位の上昇



避難情報が発令されたとき

〈警戒レベル3〉高齢者等避難

避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等）とその支援者は避難を開始しましょう。

〈警戒レベル4〉避難指示

速やかに避難先へ避難しましょう。
公的な避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所へ避難しましょう。

全員
避難

避難完了

〈警戒レベル5〉緊急安全確保

災害が発生または切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。

立ち退き避難【原則】

- がけ崩れにより家が倒壊する恐れがあるとき
- 浸水が深くなる、または長時間継続する恐れがあるとき
- 河川氾濫の恐れがあるとき

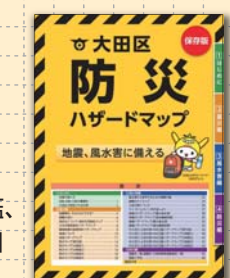


垂直避難【例外】

万が一、逃げ遅れた場合や、多摩川の堤防が決壊した場合、自宅や近隣の丈夫な建物の2階以上へ避難する。



大田区では 大田区防災ハザードマップ
→ 防災危機管理課計画担当
☎5744-1236 ㊚5744-1519



想定しうる最大規模の降雨があった場合の大田区の浸水想定について、多摩川の氾濫、高潮の被害、中小河川の氾濫の3種類を掲載しています。災害についての理解を深め、自分や家族の命を守る避難行動について考える際にご活用ください。

マイ・タイムラインを作ろう その他の風水害(雷、竜巻、雹)



マイ・タイムラインとは

「マイ・タイムライン(避難行動計画)」とは、台風や大雨等の風水害に対する事前の準備や行動を時系列に整理した自分自身の避難計画です。一人一人の家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」、「誰が」、「何をするのか」をあらかじめ決めておくことで、災害の危険が迫ってきたときに落ち着いて避難行動をとることが期待できます。

過去の大規模水害では、避難行動の遅れにより自宅に取り残され、多くの尊い命が犠牲になりました。マイ・タイムラインを作り、早め早めの避難行動を心掛けましょう。

マイ・タイムライン検討手順

Step1

自分たちの住んでいる地区の水害リスクを知る

- ◎水害リスクを知る (大田区防災ハザードマップ)
- ◎過去の洪水を知る(浸水実績図)
- ◎地形の特徴を知る



リスクを認識できる

- 自分の家が浸水してしまう
- 避難所まで遠い など

Step2

洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る

- ◎洪水時に得られる情報とその読み解き方を知る
- ◎タイムラインの考え方を知る
- ◎洪水時の自分の行動を想定する



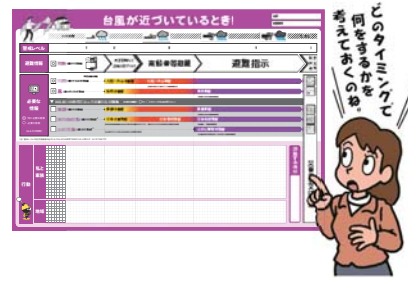
いつ、どうやって逃げるかがわかる

- 何を持っていく? ●いつ避難? 誰と避難?
- 危険な場所をさけて避難するには?

Step3

マイ・タイムラインを作成する

- ◎自分自身のタイムラインをつくる



(イメージ)

●●家のマイ・タイムライン(作成例)		
災害発生までの時間(目安)	行政から発信する情報	主な備え(マイ・タイムライン)
3日前	台風予報・台風に関する東京都の気象情報	●今後の台風を調べ始める。
2日前	大雨注意報・洪水注意報	●避難するときに持っていくものを準備する。
1日前	大雨警報・洪水警報	●住んでいるところと上流の雨量を調べ始める。
半日前	氾濫注意情報	●川の水位を調べ始める。
5時間前	氾濫警戒情報(警戒レベル3)	●避難しやすい服装に着替える。
3時間前	氾濫危険情報(警戒レベル4)	●安全なところへ移動を始める。
0時間	氾濫発生情報(警戒レベル5)	●避難完了

地域で作れば・・・

コミュニケーションの輪が広がる

- 意見交換することで知り合いになれる
- ご近所とのつながりが強く、ふとくなる

準備は大切よね! うんうん! 私の家では非常食を買ったよ! そうだね。

マイ・タイムラインを作成したら・・・

- 1 ご家庭の見えやすい場所に貼る等して災害時に備えましょう。(例) 玄関先、冷蔵庫など
- 2 環境の変化(家族構成・生活環境等)や毎年の災害をふまえ、たえず見直しを行いましょう。
- 3 マイ・タイムラインはあくまで「行動の目安」です。災害時は、こまめに情報収集を行い、臨機応変に行動しましょう。

※マイ・タイムライン作成資料は、東京都ホームページの「東京マイ・タイムライン」からダウンロードできます。

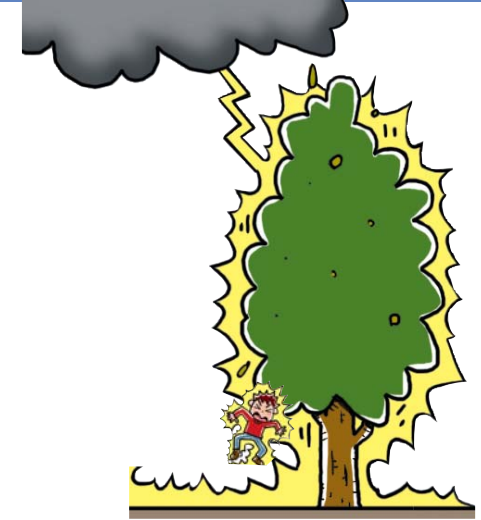
落雷から身を守る

①家の中にいるときは・・・

- 照明やテレビなど、すべての電気機器から1m以上離れる。
- 炊事や食器洗い、入浴を中断し水に触れない。
- 不要な電化製品のコンセントを抜く。

②屋外にいるときは・・・

- 雷の予報があるときは早めに建物や車の中に避難する。
- 高い木や木の幹の下での雨宿りは危険なので絶対にしない。



雷の前兆

- 積乱雲が発達する
- 空が暗くなる
- 突風が吹く
- 激しい雨が降る

竜巻が迫ってきたら

①家の中にいるときは・・・

- 窓(雨戸やシャッターも)、カーテンを閉める。
- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する。
- 建物の最下階や地下室に移動する。
- 丈夫なテーブルなどの下にもぐり、身を守る姿勢をとる。



②屋外にいるときは・・・

- ガラスなどの飛散物に注意し、近く of 丈夫な建物に避難する。
- 近くに丈夫な建物がない場合は、丈夫な構造物の物陰に身を隠す。



竜巻の前兆

- 空が急に暗くなる
- 大粒の雨や雹が降る
- 漏斗状の雲が目撃される
- 「ゴー」というジェット機のような音が聞こえる

※雹(ひょう)にも注意!

積乱雲の下では、雷や竜巻のほかにも、雹が降る可能性もあります。かたまりとなった雹は、大変危険です。すぐに安全な建物や車の中などに避難しましょう。



防災情報を収集しよう



大田区からの情報収集（震災・風水害共通）

大田区防災アプリ

大田区防災アプリは、地震や台風などの災害が発生した際に、大田区から発信する災害に関する情報を、すばやく手に入れることができる大田区公式防災アプリです。いざという時に備え、ぜひご利用ください。

主な機能

- 発令中の避難情報や避難所の開設状況を地図で確認できます。
- プッシュ通知機能で、区からの情報をいち早く受け取ることができます。
- GPS機能により、地図で現在位置、避難所の位置などを確認できます。
- その他、災害に役立つ情報が確認できます。



アプリのダウンロード

下記の二次元コードより「App Store」または「Google Play」にアクセスしてダウンロードしてください。



App Store



Google Play

※本アプリのインストールは無料ですが、通信料は別途かかります。

大田区防災ポータル

大田区防災アプリをダウンロードしていない端末や、パソコンなどからも区が配信した防災情報を確認できます。

アクセス方法

以下のURLを入力、または右記の二次元コードよりアクセスしてください。



大田区防災ポータル

<https://bosaiportal.city.ota.tokyo.jp/>



大田区ホームページ

<https://www.city.ota.tokyo.jp/>

防災・防犯

日頃から区の各種防災情報を確認できます。



携帯電話



スマートフォン

区民安全・安心メールサービス

あらかじめ登録されたメールアドレスに、防災情報、気象情報、地震情報、水防情報、防災行政無線の放送内容を配信しています。

登録方法
以下のアドレスに空メールを送信してください。アドレスは右記の二次元コードで自動入力できます。



kumin@anzen.city.ota.tokyo.jp

大田区ツイッター

区内の災害情報を発信しています。ツイッターの検索画面から「大田区」で検索、または下記の二次元コードよりアクセスしてください。

アカウント名: @city_ota
表示名称: 大田区



大田区LINE公式アカウント

災害時の緊急情報など、区からの大切なお知らせを発信します。詳しくは二次元コードよりアクセスしてください。

アカウント名: 大田区



防災行政無線

防災行政無線放送塔は、災害情報を皆様に伝達する手段として、区内約250箇所に設置されています。

放送直後からは、「防災行政無線電話応答サービス」にて放送内容をご自宅の電話等で確認することができます。聞き取れなかった場合等は、下記番号にお問い合わせください。

電話: 050-5536-5105 (有料)

関係機関からの情報収集（風水害）

●気象庁ホームページ

最新の気象情報や今後の推移などが確認できます。

主な情報

- 気象警報・注意報
- 雨雲の動き（降水ナウキャスト）
- 浸水キキクル（浸水害の危険度分布）
- 洪水キキクル（洪水害の危険度分布）
- 土砂キキクル（土砂災害の危険度分布）



あなたの街の防災情報の登録

防災情報、天気、キキクル（危険度分布）などのコンテンツでは、情報表示地域の登録が行えます。登録後、次回からは選んだ地域が自動で表示されます。

以下のURLを入力、または右記の二次元コードより大田区の防災情報が確認できます。

https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=class20s&area_code=1311100



●デジタル放送

天気予報や防災情報を、デジタル放送（dボタン）で確認できます。雨の情報や警報などの発表状況、大田区が発令した避難指示等の避難情報が文字情報で表示されます。

テレビの場合

リモコンのdボタンを押すと、データ放送画面が表示されます。



携帯電話等の場合

ワンセグが使用できる場合、画面を縦にすると文字情報が表示されます。



●風水害

多摩川の水位や雨量、洪水予報、ライブ映像

国土交通省
「川の防災情報」



国土交通省
京浜河川事務所



呑川の水位情報や雨量グラフ

東京都水防災
総合情報システム



潮位の実況や予測情報

気象庁
「潮位観測情報」



●土砂災害

土砂災害（特別）警戒区域について
大田区ホームページ
土砂災害（特別）警戒区域について



土砂災害の危険度の高まりを確認
気象庁 土砂キキクル（危険度分布）
※大田区周辺



●外国人のみなさんに役立つ情報

外国人のみなさんに役立つ情報を区のホームページにまとめて紹介しています。

https://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/for_foreigners/typhoonsearchquakes.html



地域の防災活動に参加しよう

大災害が発生したとき、消防や警察などでもすぐに対応できるとはかぎりません。「自分たちのまちは自分たちで守る」ために力を発揮するのが「防災市民組織」や「学校防災活動拠点」を中心とした地域の力です。地域の皆さんで協力して助け合いましょう。

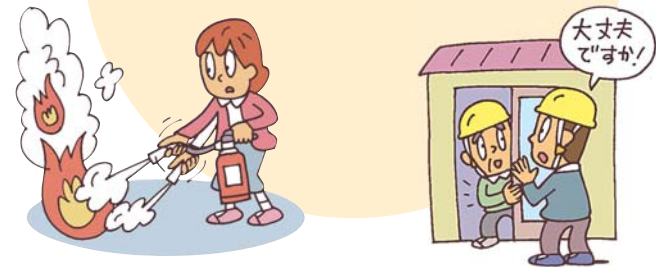
防災市民組織の活動

防災市民組織は、自治会・町会を母体として結成されており、発災時には以下の活動を行います。

- 可搬消防ポンプやスタンドパイプによる消火活動
- 要配慮者の安否確認や支援
- 救出・救助の活動
- 避難所の運営（学校防災活動拠点）※下記参照
- 地域情報の収集・伝達

※平常時には防災訓練や講習会を行っています。

訓練や災害時の活動に地域の皆さんも積極的に参加してください！



学校防災活動拠点の活動

学校防災活動拠点は、大災害が発生した場合に開設されます。学校防災活動拠点では、本部を中心に学校や防災市民組織をはじめとする地域のさまざまな方の協力・運営により、①避難所の運営②情報収集・発信③地域の見回り、在宅避難者の支援等を実施します。

平時には、区立小学校等で会議や訓練を行っています。ぜひご参加ください！

大田区
では



要配慮者支援組織づくり

- ➔ 防災危機管理課普及担当
☎5744-1611 ㊚5744-1519

区は、自治会・町会に対して、要配慮者の支援組織づくりを働きかけています。災害時に要配慮者の安否確認、救護・救助、避難誘導などを担っていただきます。すべての地域で支援ができるよう皆さんのご協力をお願いします。

避難行動要支援者名簿の登録

- ➔ 福祉管理課調整担当
☎5744-1721 ㊚5744-1520

災害など緊急時の安否確認や避難支援に備えて、高齢の方や障がいのある方などからの登録申請により名簿を作成しています。平常時から消防や警察、自治会・町会、民生委員、地域包括支援センターが保有し、地域の支え合いの仕組みづくりに役立っています。

要配慮者を災害から守るために

高齢者や障がいのある方などは、地震災害に対して、

- 身に迫った危険を察知しにくい
- 助けを求めたり、助けてほしい内容を伝えにくい
- すぐに身を守る行動をとりにくい

という不安があります。こうした要配慮者の方々は災害から守るためには、ご自身が備えておくことはもちろんですが、地域ぐるみの支援が必要です。

個別避難計画の作成

災害発生時に避難行動要支援者の方が避難できるよう、「避難先」、「避難経路」、「避難の支援をしてくれる方（親戚・知人等）」を記入する計画です。

区のホームページで様式や作成の手引きを公表していますので、ぜひ一度作成してみてください。

ヘルプカード



いざという時に助け合えるように

緊急連絡先や必要な支援内容が記入できるカードです。障がいのある方が災害時等の困ったときに、周囲に自身の障がいへの理解や支援を求めるために役立ちます。障がいのある方などは、常に携帯しておきましょう！

またヘルプカードを持っている方が困っているところを見かけたら、記載内容に従って支援をお願いします。

※障がい者総合サポートセンターや各地域福祉課、障害福祉課、各特別出張所の窓口で配布しています。

障がい者総合サポートセンター さぼーとぴあ ☎5728-9433 ㊚5728-9437

●地域の皆さんは

●要配慮者との交流を密にする

日頃から近隣に住む要配慮者とあいさつを交わすなど交流を深めておく。また、プライバシーや本人の意思などに配慮しながら、支援のニーズを聞いておく。



●避難行動要支援者を把握する

「避難行動要支援者名簿」等を参考に、近くの避難行動要支援者を把握しておく。



●要配慮者の視点でまちなかを点検する

避難路は車いすで通れるか、障害物がないかなど、要配慮者を安全に避難誘導できるよう、確認する。



●防災訓練への参加を促す

要配慮者の方に防災訓練に参加してもらう。その際に、安否確認や避難誘導など、具体的な支援体制を決めておく。



●要配慮者の皆さんは

自分や家族だけでは十分な対応ができない場合は、近隣の方や防災市民組織に、安否確認や支援に来てもらえるよう頼んでおきましょう。日頃から地域の防災訓練や行事などにすすんで参加し交流を深めておくことが大切です。

